俳諧新十家句集

月

俳諧新十家類題集冬部

目録

十月　小春 一丁　冬日　神迎　神去留主　玄猪
達磨忌　芭蕉忌　十夜 二丁　初時雨　時雨 三丁
風 五丁　冬月 六丁　霜　初雪 七丁　初氷　氷　水涸
落葉 八丁　散紅葉　枯蔦　冬木立 九丁　復花　山
茶花　茶花　枇杷花　冬牡丹　水仙　石蕗花
十丁　枯芦　枯薄　枯尾花　枯菊　枯草 十一丁　枯
野　蕎麦刈　冬籠　冬構　冬山 十二丁　埋火　巨
燵　火桶　湯婆　榾 十三丁　炭　炭竈　炭團　衾

紙衣 十四丁 紙代守 水鳥 千鳥 十五丁 鴨 十六丁 鷺
鷺 鶴鷸 鷹 鷹狩 十七丁 牡蛎 十八丁
十一月 冬至 神樂 御火燒 十八丁 雪 十九丁 雪竿
樏 霙 廿一丁 冴 氷柱 鐘氷 寒 廿二丁 大根曳
荳菜 芯 風呂吹 蕎麦湯 藁喰 海鼠 廿三丁
鯨 廿四丁
十二月 臘八 寒月 寒紅 寒晒 寒聲 寒
念佛 鉢扣 廿四丁 冬梅 臘梅 冬椿 煤掃 廿五丁
餅搗 年木 春を〻 春待 柊刺 追儺 廿六丁
年忌 年付市 歳暮 年惜む 廿七丁 年ゝ 大晦日

目録

年守夜 廿六丁
同 雜部
雜 廿九丁 神祇 廿丁 釋教 廿一丁 恋 無常 廿二丁 追悼追
善 廿三丁 懐旧 廿五丁 述懐 賜答 廿六丁 名所 廿八丁 羇旅
四十二丁 畫賛 四十四丁 詩語 四十五丁 祝 四十六丁

俳諧新十家類題集冬部

河内　俳諧堂素貂
浪華　河里園六轟　両編

十月

十月や冬こと寄せつく菓子屋　成美
十月や枯木の中の花の寺　樗堂
十月やさくらの花の木のもと　〃
十月や梅の木立の枯の実　升六
十月八幡よりうつして富士の見　〃
十月や柿ふるまうて夕の雲　〃

十月廿五日　寄潟
十月や海ゆる松葉搔　蓼虫
ちりそめ落ちはいろもかんなぶり　丶

小春

臺一舗も出く色付く小菊哉　成美
小潮子はやしやとはりの小菊哉　丶
ゆくゝと歯接る傘も小菊哉　丶
小菊哉人い居ちひさく雨　丶
紙人ゝ夕雪かゝる小菊哉　月居
ゆくゝれるものや小菊は離本山　蓼虫

冬日

冬日紙障子に落く影ぬり　成美
洗ひ流す日は冬海とぬり　乙二
冬日ぬるさ須や蠅とる座敷猫　樗堂
冬ゝ居ゝくゝ足ゝ冬日貴の水　丶

神張　神留主

冬ゝとい人ハ神ぬるも時雨とる　升六
冬ゝに神ぬる沸留主を藤月夜　成美
冬ぬる玉神ぬる沸留主と白ゝし　丶
松風や神ぬる留主を人張ける　寄潟

玄猪　升六

門くぐりけるやなりけさけるかし

達磨忌　寄淡

達磨忌や脳は辛きむしり酒

芭蕉忌　完来

芭蕉忌や味ふかけれも水仕月

[illegible]　道彦

[illegible]　升六

[illegible]　乙一

十夜

四ノ二

四ノ前は冬いとなくなる十夜哉　月居

十夜寺撞くなく咲けるを　完来

[illegible]　成美

初時雨　升六

初しぐれ屋根は[illegible]　月居

板[illegible]

山[illegible]

大[illegible]

[illegible]

山里ハさけよ後はん初しぐれ

義は其ことを郡人はなれ初しなれ　士朝
眠りなりく　樣まし初しなれ　家溺
初しなれ蓋は出るなる本領式、
稽垣は人ゆるなれ　研面　蓋れ
家宮手里水見なりく初なれ、
初しなれ　けつ結なれ　爲　垣、
雨
ゆは研面すれ山家は小石屋　士朗
は高なりく見は初又なる研面、
りなる見をなるなる見なる行研面、

四ノ三

志なるなるなるすなるうなるれなる難なく　を義
乃なる數は家なるなるれも降しなれ、
なるなる研面なる実てなる殿なん、
業なるは研面は多なるなるなる、
時なるれは研面をいつれ拾なる人、
尾事なるものとなるなる研面なる　奇測
奪は駅とくく拾なる小夜研面、
事なる人の中略は屋面を研面なる、
業なるやしなるれくのなるなるれ栗、
乃京は研面なるれよ塔一ツ　蓼孔

時雨ふる法師山雀鳴ける、
人はみな里へ出て田の面の稲刈り成美
里はみな中の人は小さしら鷺、
残雁はみな堤に列をなし、
夕〳〵ふれば鳴く鶴の、
鳴けよかしはやうまるる月二
ちらし山鳴るうまるる
鶏家ら鶏よりもまるる、
中〳〵よ日は暮れ田の面、

風

おうしは黄いろなる菊の名 士明
赤粘は白もちくとあり上、
きうりは三年もたる瓜、

イニしへ田の面のわちく高ゐ秋の雨、
稲は穂のとなりかもの田の面 樗堂
家ゐ七枝あるは田の面は七大寺、
おくゝやこの藤に紫はかりつるく 夕居
しらゝかりしられたれのや、
ゆれ高ゆ月は月のくれ、

[illegible]
風は吹かむ吹くまでに
木枯に住くらん程は家 成良
[illegible]
風はあらくや氣は程をさん
[illegible]
程は葉ゝ[illegible]
[illegible]
木枯のあらくに響は新月居
[illegible]

[illegible]
[illegible]
風は日くさわく清水
冬
月
[illegible]
[illegible]
木枯は一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊波やみるまに出る名は月 稼圭

三日月に見るも名は月 ゝ

鉋くずも白川に出る名は月 士朗

さそふもと草つ夜も行名は月 ゝ

名は月 見え東にて見ものは月 ゝ

世の中にせりや月ある名は宿 ゝ

戸口に芦は月にや名は月 蒼虬

竹の小高さわし名は月 定来

名は月 味高く見ゆけり 成美

名は月なれる口にはうけ付かぬ ゝ

霜

名は月や何の菊とりて月の岸 ゝ

月くのかり名也たら名は月 ゝ

露川のさと宮さへおけり草は霜 蒼虬

おいやしん桐の立て霜は宮 ゝ

里は竹は鯱らし霜おく ゝ

霜ふるも寺へ入る江はかけし ゝ

杼水はかくる霜はやき霜 ゝ

葉煙は餅とかろ也霜は多 定来

馬は服はなる本ノ羽霜白和 乙二

[illegible] 升六
[illegible]
中[illegible] 斉信
戸[illegible]
[illegible] 士朗
[illegible] 桂生
[illegible] 道長
[illegible]

初雪

初雪ハ[illegible] 花を[illegible]雪月花 士朗

初雪[illegible] 成美
[illegible] 芭蕉
[illegible]
[illegible]

初氷　氷

初氷[illegible] 升六
[illegible] 成美
[illegible]
[illegible] 斉信
[illegible]

味噌搗は焚ものを拵る氷うれ　定家

水面

沢は多けれども枯てもけてもうれ　寄海

落葉

ぶるぶる寒さ寄めして来る落葉哉　士朗

拾ふてくうくうもうもう落葉哉　乙二

落葉哉ものさびしき寺やうれ　月居

ものさびしい沢の落葉哉　、

落葉哉又ぞ一小芋生　道彦

古郷へ人の来るも落葉哉　成美

家古ふる年ごとゆれ落葉哉　、

落葉哉日暮るる程拾はれ　、

住すてし古郷へふれば落葉哉　、

落葉哉やもうくもうもう古びし手は有　、

散る葉かくもうもうかくもう鶯哉　定珠

鶯哉なくくもうもの行る落葉哉　養九

大寺は門さくもうもう鶯哉　寄海

かくもうもうもうもうもうもう本堂哉　、

掃ぬ先とすりゆく落葉哉　、

山茶花の咲ちるを見て　升六

散紅葉

ちる紅葉裏葉をかくす日和哉　蓼虫

夕陽うつしけさ一ぱい紅葉　成美

枯柳

むらさきの毎日うつる柳哉　奇淡

うつる柳うつるうつるみうつる　月居

白鳥の池ゆく人柳ちる庵　蓼虫

冬木立

鶏も高うるまるけちる冬木立　成美

復花

かへり花もちも今をさかり　升六

常盤なるよりのこりの花　奇淡

十月はそもひかる梅哉　〃

かへり花此ゆるもちる梅　宝水

種食はれ秋ちる人は帰花　〃

実はは出はは養ちもちく帰花　成美

山茶花　茶花　枇杷花

さらん花の咲はは住居も寒哉　奇淡

花ちるも甘蔗の葉はは葉　道麦

枇杷の花　日ゝ見ぬ日ゝ咲ける　升六

冬牡丹

十月の寒いとなれども牡丹　乙二

実桂の雪風そもそも牡丹　蓼丸

水仙

ゆきせんや一茎ながらく挿すべき　定夏

すいせんの朝ゝ白き頭巾　升六

白川の雪はゆきせんの竜　乙二

ゆきせんや中ほどゆるむ咲き出ぬ　蓼丸

石蕗花

やいばの花　士朗

ふゆのこゝろ冴ゆるよりは花ぞ　月居

枯芦

枯芦の穂の夏ぬけ　乙二

芦ゆゑ人目ゆゑ息　道彦

枯芝

一つゝ芝のゆゑん枯すれ　升六

一節ハ蹠ハ花ゝ　寿隆

根ゆゑ沙ゆゑと枯芝　丶

ゆゑゆゑ霜ゆゑ芝ゆゑ　樗堂

枯尾花

さらぬ野もうまれたちぬる枯尾花　自居
ふるさとをとふとはなしに尾花　道麦
いとゝうつくしかるべしとてかれ
日の影はあたるも弱し枯尾花　寿隆
寿隆　川賜はもちろん枯尾花
松山はひとさし出く枯尾花
波の引くまもあらぬ尾花　樗堂

枯菊　枯草

菊の香の懐炉を抱くこゝろ　升六

枯野や菊母しよせる柴の垣　樗堂
かれ芝や新そこなひる牧の馬　寿隆
冬うれは枯芝をいやゝ日の菊　道麦

枯野

九重はうつゝ法皇の枯野哉　自居
門主は高野を俗の枯野哉　道麦
初雪の雪はうつゝ枯野哉　成美
中の月や枯野のいろの人の影　寿隆
むかしよりうつゝ枯野哉　〃
こゝはいかなる枯野うれ　道麦

[illegible]　士朗
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　成美

蕎麦刈

[illegible]　道彦

冬籠　冬構　冬山

[illegible]　樗堂
[illegible]　士朗
[illegible]　自居

[illegible]　成美
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　外六
[illegible]　月居
[illegible]　外六
[illegible]　樗堂

埋火　火炬

埋火やうるまけるに花すゝ紀　定林

うしろ姿やん女は数へてゐる女　道彦
提火や世の子は戸も妻ハ外　月居
ちゝぬ女は子をもつる外ハ亜ハ焼　定末

火桶　湯婆

箔雲母　月さやけ古火桶　月居
けやしく手たゝを我も抱けり　道彦

樽

樽は女に影ばかりなる冬籠　乙二
親子しゝほ外やん樽は蓋　定末
樽よ寒し旅人狸ゆくけりつ　道彦

炭　炭竈　炭圖

峰は宇治は炭焼の煙ひ　士朗
炭ゝくとる松ハ久ハ戸ハ　樗堂
打ちは弟ハ炭はむち　道彦
俗ハ墨ハをさいゝ炭俵　成美
炭ゝるは炭ハ白濁ハ　樗堂
たゝんは白ゝと日暮ける　升六

衾

引ゝるは炭ハ衾ハ　成美
ゝ平ゝ和ハ主ゝ漬ゝ　道彦

たくさんあハ蓋はすのこ紙ふぢ　奇洲
ふぢはきまくらや蜂一はち雲　乙二
いはちるはしたくさんふくろ鬼　樗堂
角をつくしけりやふぢはな嵐山　士朗
紙ふぢは一おもひ紙はなまろ　月居

紙衣

上京ハ紙ゝ人あれとうまふ　蒼虬
ひとしふしはなは紙ゝ
ま紙ゝあつかはるゝ　月居
ゝやゝ紙ゝつゝんかちん　ゝ

紙代守

男ゝ鯨い寄くひつゝ　道彦
家ゝ蓑ゝ蓑ゝ　奇洲
ひつゝ寺宮ゝやゝ朝景　月居

水鳥

雑ゝ鴨はゝ　奇洲
水鳥は我ゝ　士朗
ゝ鳥はゝ　蒼虬
沖中やゝ鳥は浮藻ゝ　ゝ
ゝ鳥は油ゝ江は朝日　升六

千鳥

さゝなみや志賀の浦風こゆるなり
松の梢をわたるつゆかも　春湖
夕されば千鳥なくなる
磯ちかき海のなかをとぶ　堂
月の松原をけしきもたゝぬ　士朗
鶴つるゝ水のなかをとぶ
むらさきの雲のはしをなびく　月居
さゝなみや志賀の浦風
川霧の八重なびくあけの朝ぼらけ　蒼虬

鴨

さゝなみや志賀の浦風
さゝなみや川の道とゝのへ　川の島
川上の柳も枯れて鳴くなり　堂
夜の雲ぬれてなくなる
川の水の年はくれぬるかなり　春湖
水の面の月のくもりなき
久しき水の面の氷の凍りて　士朗
水の面の八重の霜の白むまで　道彦
月のうつる池の水の清きかな　月居

梓挽の中まハ鴨のく沢の水　宋屋
行く鴨を力に冬の入日かな　、
鴨ともの日南ところ／＼立ゐそ　道彦
小鴨にもよそ／＼しさや郡多　、
鴨のくや雪ふりちる池の面　、
かもめのこゝろをあらや松の風　奇淵
ねうはや鴨やつく／＼池の道　、
網のりく鴨や一時芦の音　、
尾まりよ鴨みえて入る戸口哉　乙二
鴨のくや宙よくまる船の中哉　、

まつ竹はこぼすまがりくや池の鴨　、
湖を鴨く埋む来紙松の雨　士朗

鴛鴦

片渕をくるくるとむれたる鴛　月居
をしの為のみどりや庭の世をそく　、
うちつれて行られ降ん鴛の上　奇淵
をしの為よすせふ淋しい山の池　樗雀

鶺鴒

戸中まよそろうも戻れるさい　宋屋
茶餅やうまく戸行しるさい　、

松竹年年ひもゝ生ひそさい　、
門ひろ川もとゝ朝くゝそさい　外六
そさゝい阿きゝ朝をうゝけを　寿国
そさゝい毎朝の書を取り　、
小屋凡みま色をへまてくゝそさい　、
御朝顔朝そもあ　そそ市い　乙二
我姫松朝くゝとゝそさい　、
歯朝朝あゝしゝ朝もゝしくゝそさい　、
楊つゝもそうゝれゝそさい　樗堂

鶯　鶯梢

山ゝやいつゝくゝもゝうゝ鶯朝影　寿国
鶯梢朝すゝくゝ朝遍松朝鶯　、
鶯ゝうゝ朝ゝ宗ゝうゝ松ゝゝ子鶯ゝ　乙二

牡蛎

売牡蛎も言ゝゝ野ゝん芦朝　士朗

十一月

雪ゝうゝゝゝ書朝紀ゝの服朝ゝう　寿国

冬至

大寿をつゝゝゝ冬ゝ玉朝ゝ人ゝゝひ　士朗

吟ずるに中なる玉垣の日うるはしく　月居
うるはしく見なる門や大経師　〃
松よりかゝるいとゞ見ぬ　升六
上加茂へふとゝぎすの山を出るかたぶく　蒼虬
籠堂より海山を出るかたぶく　寄渕

神樂　御火焼

海代もすゑ麦もすゑ里神楽　月居
稲束の翌代つゝる神楽囃　寄渕
門前に雲の出る里神楽　〃
海火焼の焼うつゝく時鳥　升六

雪

大雪の中に立つ松の月　寄渕
うゝ海雪よりあつ雪の西も都哉　〃
海雪に出て行くに雪の笠　〃
横町や笠よりあつ雪の家　〃
鶏に雪ふる雪の海雪哉　〃
山に雪ふる雪の海雪哉　〃
庵に雪ふる雪の見悟哉　〃
人に雪ふる雪の松の留　〃
雪に雪ふる雪の磨ぎ雪　〃

雪ぬ朝頬赤ハうるおひのすがし　七二
降雪ぬ海山樓ハ高くかすむ　、
琴瑟形りよ雪ぬ亀家ぬ絃　、
雪ぬ厂　明と　うるおく眠る　樓臺
うるおしいう雪ふ和ぬ　、
降雪ぬ三井寺ハ月も月和ぬ　士朗
雪ふふや我ハ　ふく　、
雪ふ舞　茶焙　ふ　、
明ふや　ハ　雪ふ　、
雪ふふ　ふ　ふ　、

老ふふふ　ふ　ふ　、
ふ山や　山ふ　雪ぬ山ふ　、
月雪ぬ夜ふ　ふ　ふ　、
ふふふ　ふ　ふ　、
白雪や　ふ　ふ　月居
雪の人　ふ　ふ　、
ゆふ　ふ　ふ　、
ふふ夜ふ　ふ　ふ　、
雪ぬ眠ふや　ふ　ふ　蒼虬
ふ　ふ　ふ　、

雪近しゝを因よりける松が枝、
冬がうちなる梅ヶ枝に雪、
雪がうや戸やとくとくとゝ一しぐり　道慶
面白紅雪ゝかなとやゝ人ぬし、
雪ゆがうちかしは咲くかりけり、
しきたきに雪をとゝ白して雪降　升六
降ぬ雪ゝ松が枝に雪、
茶雪ゝよ紅我影よ雪しもに、
笛ゝよりうゝ人よ雄鹿よ雪がうれ　定孝
いつがに垂ゝよりつゝりけん松が雪、

雪がうゝ行ゝうゝをとゝうゝとゝ呼ける、
松が雪も曙がに雪も皆白し、
降ぬ雪ゝ却ゝ雪は濁田川、
ゝよゝ竹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雪がき、
梅が末ハ雪つむ中よりしなり　成美
雪がうゝ彼ゝ川人も来ぬ、
誰ゝ来ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雪、
ゝゝゝゝ家と却ゝ人ハ煙ゝ雪がうれ、
翌がうゝ高ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雪がゝ、
何がゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雪がゝ人、

雪の道ゆりうる我帰よくし　道彦

いせの鷺の榛に日もあたりつる雪　〃

松風の揃ふく押や雪のうへ　〃

見ぬ雪やおもしろ月は宵のうち　士朗

宵ごとや松の為の雪と人の声　道彦

雪竿　橇

雪竿を一本ほしや旅烏　升六

橇のあとゆかりくく夕日和　寿清

霙

霙ふるさゝる白も刈し山の端　乙二

うき鳥の羽もいろけれに霙かな　〃

菜そよぐや雲居とも軽く薮の家　〃

さゝん花をありがたがり落霙　完来

ころころや雪ちりかゝる小笹原　道彦

霰

荷馬しく面白けやむ霰かな　乙二

二人してあまりて宵や降霰　〃

決るいそ霰の音ぞつらそそれる（イニ　おもの〳〵雛や縄）　〃

かくれ居るすゞめ雛やろいわれし　道彦

雪の松の名とかゝる霰かな　寿潘

[illegible]

冴　冷

風[illegible]枯[illegible]枝　弁六

雄鶏[illegible]枝　又も冷[illegible]　乙二

氷柱　鐘　氷

日[illegible]影[illegible]氷柱[illegible]人[illegible]玉[illegible]夢　士朗

鐘[illegible]後[illegible]　乙二

寒

芭蕉の[illegible]

竹[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大根曳

[illegible]

長明[illegible]車[illegible]大根引　蕪村

大根[illegible]松[illegible]大根引　等哉

茎菜　茗

[illegible]

苣葉漬　雪の田上はつかい　定茂

小式部はつかつかもそなる苣烟　士朗

風呂吹　蕎麦湯

ふるはもの　茶はは　一心寺　月居

はつかつかこの仏物よりの蕎麦湯　升六

藥飡

宝山は何所　成茂

手仙をさ川ちりさつく藥飡　寄溪

海鼠

ちれは僧海鼠の骨はなきこと　定林

ちゝはきはのつよ同しはなる　林英

花紅葉はふもとはなれ　士朗

鯨

こゝのこと京八鯨も形つくき　月居

十二月

赤馬は自利しる出る阿弥　寄溪

臘八

臘八は朝風名出る影八誰　月居

寒月

[illegible]加茂みも一ツ小家に　蓼虫
[illegible]月をちらす影や霧の窓　奇淵

寒紅　寒曝　寒聲

[illegible]紅りうたたねの上も野　千六
[illegible]しをや月夜はさらす石　〃
[illegible]忘れ袖ぬる　夕居

寒念佛

[illegible]忘仏名はあり共[illegible]　芭蕉
[illegible]念仏河漕ぐ浦とうたふなり　完来

鉢叩

[illegible]ね鉢叩　士朗
[illegible]いつも行ふ鉢叩　〃
[illegible]はあるよ鉢叩　〃
[illegible]も鉢叩　成美
[illegible]下を鉢叩　〃
[illegible]のさく鉢叩　奇淵
[illegible]ぬ鉢叩　〃
[illegible]師はつゝく鉢叩　檀雀
[illegible]出る鉢叩　蓼虫
[illegible]鉢叩　千六

冬梅　臘梅

[illegible]梅は[illegible]梅は[illegible]　乙二
我國は[illegible]大[illegible]梅は[illegible]花　樗堂
唐は[illegible]ハ[illegible]いせ人[illegible]梅　士朗
臘梅や[illegible]戸[illegible]茶[illegible]僧　升六

冬椿

佳人は[illegible]川[illegible]は椿さく　齊溪
椿[illegible]は[illegible]花[illegible]川[illegible]　升六

煤拂　事収

すゝ[illegible]ものとやる琴琵嚢　來吳

すゝ[illegible]松は孔、
遠里や[illegible]すゝ拂　齊溪
山[illegible]すゝ[illegible]は[illegible]の雪、
すゝ拂や[illegible]士朗
仮[illegible]ひ[illegible]納　道彦

餅搗

[illegible]一白[illegible]誰[illegible]　月居
山風や[illegible]　齊溪
[illegible]延、

年末

蔦はも　交毒二把　[illegible]　升六
[illegible]　定家

春近　春待

[illegible]　寄海
[illegible]　道度

[illegible]　乙二
[illegible]　寄海

[illegible]

[illegible]　乙二
沢山　[illegible]　升六

年志

[illegible]　秘蔵　牡丹　咲　升六

年市

[illegible]　古　読　定家

歳暮　年惜む

[illegible]　[illegible]

[illegible]　士訓

古葉　[illegible]　定家

一夜うつしてくれたる人に　樗堂
妻子なれとも彩ことに年暮
ぬよ誰も服さうさぬうち　友
旅の小何所へとゝまりて　升六
くれぬ人をつくよう　升種
小宝うるもとゝ　道夜
俳僧も別淋しいうれしう
行うち　士朗
たしくとゝ　
行やゝ　雛祝いの　升六

もりうつくゝ　樗堂
もりやゝ　杉人
もりやゝ雪汁　
うゝ　
たうとゝ

年とる　大世日　年守夜
雪ふるや少年の年とる　小田切鶴　養虹
いろ〳〵の頃　
少しうつる一日　柳法　奇法
大世大世雪は降ける　士朗

[illegible]

俳諧新十家類題集冬部 畢

俳諧新十家類題集雜部

河内 俳諧堂来報
浪華 阿里園六轡 両編

無季

[illegible]

[illegible]

詞辛行類分

[illegible]

[illegible]

花はよし野も身の丈科も出かゝりけり

風情ある人は

まづ見えし名ところも初日山　完来

花も見ゆ月の身の白さ人をいはすさむく

冬之事の梅を見えし花　士朗

山家

日うけの秋の親しき里の几巾かな　道彦

鷹のくらまちの名かな

蓮葉の雪を継ぐや鷹の数　寿海

宗室

火もくれて此梅子香の枝あつさ　櫻堂

秋季開白まで

白露のこゝ小くらまよ茶の竹ぞ　道彦

窮郎井を後るゝし野

さらに川冥鷹のあかる人かな　其昆

人まちく

墓前の芋種ぞ芋の露　乙二

青山流れて流水ところ浪江上の風冕

うつむく雲を作る雨雲

雁立や服をやきかけ秋の風　櫻堂

清風名月一銭は買事を用ひず

風情は飛ぶ虫をおそれず

園に十一月をもてなす正月風流

芙蓉は戸ごとの色を尋ねけり　寿渓

月見せむ人はそれぞれ数をいつくし

山里は自然を尋ぬ庭の松

名所は風景つくす初雪

人は花月いつくやいつくにか

十五夜と宿かりしけり秋は雨　道彦

山家

村中は外ハ山くらく菊は花　寿渓

常夜燈常夜燈流轉して

行くゝ世ハ尺蠖はたゝ繁　升六

樵夫

影と樵つくかくるゝ老の翌月　等夫

紫うつり紅もくれぬ多はら　道彦

くくるよい名ゝ月をみるよ鶴　士朗

計よ芋を永くつけうる多は番　乙二

神祇

任長奉納　春日山

いくとせを　経ぬる　春の　花の　雲

苔むす　色　古りぬる　松の　音

聖廟法樂

梅咲くや　春の　来ぬる　里の　内　外十六

松　さくら　小　妻　妙　常　日　妙　や　ん　ん　斎藤

俳諧

秋　妙　も　ち　ち　月　に　雲　を　つ　ら　ね　し

神路山

さくら　妙　に　旭　物　ち　長　多　ま　ち　ち　、

筑紫國金宮氏　妙　先　主　を　東　義　霊　神　と

執　清　し　た　ち　し　し　対

宮　妙　ち　ち　や　神　と　唱　ち　る　宮　梅　、

象頭山奉納

甚　妙　雲　法　山　妙　ち　ち　い　ち　船　語　定　不

雲　を　ち　し　む　ば　ま　ち　い　ち　ち　を　象　頭　月　居

釋教

四天王寺夜桂

白雨ふりてやみぬれば月出て尾花　弁六

高野

雲ふかく泉涼し　女人堂　樓堂

曉ものすごし　森ふかや高野山、

刈萱堂ふかく緑起をかく

悟外ふかく高野山を見てうかぶ　芭蕉

苔の花ふかく梅雨堂に納しるしる

俗人ふかく梅雨ふりうるおふ　樓堂

暗識ふかく色かすみ　雲ふかく

七夕ふかくあつまりて涼しふかく　成久

初瀬寺

橋ふかく木をたのみて堂　芭蕉

雲ふかくふかくふかくふかくふかく

孫生ふかくまくふかく

生きふかく一本ふかくふかく高山、

志賀寺

志賀寺ふかく橋ふかく大ふかく二人ふかく技ふかく　乙二

花ふかく雲ふかくふかくふかくふかく

春雨ふかく植やつくりけるふかく結尾花　芭蕉

恋

忍不逢恋

[illegible]一夜[illegible]人　月居

思恋

[illegible]焼[illegible]　樗堂

島原

[illegible]ひゆ[illegible]　月居

無常

[illegible]　升六

二帝[illegible]

[illegible]

追悼　追善

義仲[illegible]　結昌法師[illegible]

[illegible]中　桔尾　花　樗堂

[illegible]　道彦

二柳庵[illegible]

[illegible]　樗堂

兎もあれ山吹は花の中　蒼虬

悼　貞松

こ縁しきは只川を笑や枯尾花、

悼　蝶夢

筆硯の外魂もちらぬ師走かな　升六

悼　何某

夜半は比も川く水井のにかな　其良

聞くは此山ともおけと云人も　月居

白川はしたる程も菱けり柏の影　寿溪

さらぬは継もう礼袖袷　其人

杖を顔とする麻木のまけのきとし　寿溪

守山の喪に籠りて

啄木鳥の青似あひしや経の声、

愛子を二人まで寝の袖すきたる人に

携へたる五形の菫や家の経、

悼　雲園

雲の行ゆきに先のかなしさよと亀、

民原氏初願忌

夜もす木魚も和の気を唄ふ、

悼　大祇

朱者黒ハ落ちるものを用ひる　月居

宗瀚

秋の日は精しきまさるを向ひ　道彦

二帝冥文百年

月は秋をこひ寄る墓はなし　青湖

月と紀を東に繰はいまもなし　升六

一周

石は苔をうゑたのみ　等躬

冥文十三回

文学はひとつよりたちもし　蓑虫

蔵雲和尚はいとこの中先　青湖

師は十三回忌

経を中宵はむしりはうは彩　升六

古祇は三回

古ハ法ハ法系はしの秋　青湖

懐旧

楠氏墓

秋風ハ昔ハきき紀は深川　士朗

福原

[illegible] 斉渕

郭[illegible] 士朗

丈[illegible]

[illegible]

西上人六百年忌

[illegible] 月居

人[illegible] 升六

西行塚

暑[illegible] 何[illegible]鳥 樗堂

魯隠と渕田川を[illegible]

四ノ[illegible]

渕田川城方を[illegible]諫越鳥 成天

述懐

蘿鬢[illegible]日

親[illegible]人[illegible]見[illegible]墨衣 樗堂

老情

秋風も春風も[illegible]

病床

[illegible] 士朗

贈答　自他はるかにちがひて

田中はる里　黄雀接

けうとかるんぬるはるかぜとゆうべ　月居

千鳥庵

古里もゆう　ちるはるはるかぜ　、

芝庵

朝ぬれはるまくよ人はとまりぬ　士朗

常盤塚とゆう雪はるかぜ紫ゆう

春はるはるかぜとゆうぬるすれば　乙二

鳥子作はる郎ゆう

鶴舞て作る郎ゆう色はる色　、

きゆうとはるもよ三経亭よゆう

郎ゆうはるかぜ　服部　、

詩　芙川

ちるはるはるかぜ　紫山ちるはるかぜ　、

人はる家ゆう

絃すゆうはるかぜ　色はる色　、

仁十ゆう帰ぬ

ゆうはるはるかぜ

一　蓼ゆう

[illegible] 樗堂

すゝきの穂を枝とせる兵庫の人々の問

[illegible]風の枯蘆の秋の色　井六

[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]の[illegible]道[illegible]咲　士朗

椋嶺の[illegible]に桃潛堂にて[illegible]

[illegible]を我もゆうべの庭へ

さくらさくらふるさとの[illegible]　李岡

来報の東行て

江の[illegible]の始[illegible]　反屋

[illegible]人の系言ふ

三月の旅を[illegible]　升六

送別

文[illegible]や宿ハ[illegible]　蓉虫

木芽の五束齋を名[illegible]

楪の[illegible]　秀渕

蠧價の裁方冊[illegible]

文[illegible]　宋美

大江丸をおくる

[illegible]の姿も小春ふ　丶

[illegible]國[illegible]前濱[illegible]時

[illegible]　月居

名所

深草

濱[illegible]山[illegible]月　月居

嵯峨

[illegible]一里[illegible]　蓼虫

[illegible]　宗良

嵐山

[illegible]

[illegible]　升之

友[illegible]　樗堂

富士

月[illegible]山　士朗

[illegible]

[illegible]　樗堂

[illegible]

[illegible]月[illegible]　士朗

須磨

苗代[illegible]

[illegible]

芳野

西行法師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住江

松久しく年ふるまつ木陰にて　升六

[illegible]

[illegible]　乙二

[illegible]

七夕

[illegible]

[illegible]

角田川

[illegible]　定本

[illegible]さや秋は只つる沼田川　家矢

芦蔭

芦蔭いつまで人はかりしか　樗堂

境山

秋風は廿日のそかつる山　奇淵

紀玉川

稜雪は猶やつもりつる水　〃

高野山は影玉川に流れけり　〃

和奇浦

田鶴は芦よりとく雲の濱　月居

紀三井寺は波に小船のつなぎ捨

[illegible]

宇治

畑中は墨染桜咲きにけり　〃

寧樂

芋葉は都の秋のいつまでか　〃

江口

名ゑ[illegible]　〃

不破關

世の人の[illegible]破の関　士朗

巖島

月ふかくいくさきをといつもしる　寿保

矢奥山

かくしやいつまで錄をはなつ初雁　刀居

琵琶湖

湖は月夏やはるかなる　、

はるかやあるよりあるあきはかな　寿保

羇旅

えはまつ子道をあるかりけり　乙二

四ノ四十三

りはつ巻や旅ゝ仏ハ稼さん　樗堂

秋はかりよ巻をあるきく旅愁ハ　士朗

ゝ仏ハ夏ハ昭君はかり様一枚つ　定来

義色旅はかりハ月しかりハ　士朗

旅すハ明日はかりはかりはかり　道彦

作夏はかりふく

夏さまハ巻はかり実様ゝき組　乙二

月見ゝ

木かくれはかり人ゝをしたゝ、

山寺

撞木もて撞つ音を枕頭にあり　士朗

御幸供奉

燒塩の煙幸供奉の煙寄せ　丶

仙府樓閣の岩を拭く

玉手山もしら拭の木間より　乙二

長閑や石屋に少も花ちる行金剛

帷子とるしらきつくり林檎　丶

すゝぶき川

簗の目の夕空つゝみる水　丶

秋さびし行方なき山の形　丶

醫王寺より行基中

蓮の葉の花ちるかゝるすゝ　丶

愛宕登山

吳天の秋空へ入り　乙二

くもの紀路の秋の日の秋の雲　升六

岩の行秋をとゝのへ　洪水　橋星

文月四日文鄉の墓をとゝのへ人々

行ゆく紀の富士やすゝ

親よりも懶つゝ言ふ蕨哉　乙二

笠置山

五月雨や人ハ家より川笠を　寿溪

灰形山

岩ゝの形ゝ蔵りもたゝ山茶　丶

大龍寺乾泉ゝ

六月や地獄ゝゝ中　升六

戦路ゝゝさゝ溪ゝ

枝風枝ゝ者もゝゝゝ　乙二

若葉寺指ゝ月

椎枝の木のゝゝゝ　蕉

第鈴を出ゝ寺ゝゝ鶏ゝ

但ノ日十四

埋ゝゝゝ貞ゝ波ゝ野ゝ枝ゝ蛙ゝ二ゝ

交ゝゝ枝ゝ家ゝ月　乙二

ゝゝ衣久ゝ　丶

畫賛

芭蕉翁像

ゝ枝ゝゝ人　ゝ枝ゝ枝　升六

破ゝゝ枝ゝ

枝風枝ゝ

七賢図

ゝゝゝゝゝゝ　丶

伝へもゆくかしこき竹の林より　士朗
蛾眉人の筆硯りちくるる
花の手別れんは竹のけり　斉風

亀
紆水の流れたえしく代々の枝葉ゝ
千代熊尾図　打破鏡東呉没相見、
うちわりぬも月の鏡もいくぬれ、
筆の絵に
まゆみのや墨い川まいの流れて、
妻花の茄子画きそけ

難波津は妻子茄の初音ゝ、
思ゝ王図
かくら山落ゐの鏡も老けり、
豊継縄師の画子野に
名をとりの二人のうちは子よりより　紫文
鐘馗大臣
數の中よ注鬼見せ川眼の光　道彦
落よ麻雲になる
見るや麻木里は菊子かゝ久く　月居
牛の画

牛竹菊玄はいろはいの事 素閑

詩語

麥柳渡江春

[illegible] 升六

薩天送春秋一年三百日煙霞藥此身

恐治愚癡疾

[illegible] 士朗

粒々皆辛苦

吟風弄月[illegible]飯上 樗堂

呂洞賓所謂蜂負樂有餘

二月賣新絲五月糶新穀

送君還旧府

月居

[illegible]

高岳院晩鐘

樗堂

夜半鐘聲到客船

寄洲

[illegible]

虛公去後石屛存

雪とけてさすかに世に残る鶯か 、

粉骨碎身未足酬

宮金仏菊むろやかくりもの亀 、

只聞秋歎聲

見るうちに霧のかくるゝ秋の空 升六

祝

初老賀

大そらを限りのはつるの影哉 士朗

平日の門をひらくや初若菜 升六

こ法ろ六七の春を寄れ

こゝ白のこゝろもしのふさくら 、

耳順賀

鶴の頭にのつけし枝や松の花 斎保

つく杖にあらめ花のけさ残る春白れ 、

なくそちの春 二章

ゆきつむやゆきしくもゆきの花の花 士朗

古稀賀

月雪にかゝりて添て花の春 、

花をもとめて雲人は日乃茅蔦　升六

うらぶれと老せし山乃日ハ暮し　、

寄梅八十賀

う咲もちらさぬ木影の松葉　寿渕

米報ゝ立ルを賀し

椎はなのよもちひさ行つるし蓬屋　升六

柱石金初懸

寄て時ぞ行末きくのりの式　、

一曙ゝつゝを重ねる書く

いつまでも菩薩ゝる続ゝ　乙二

一枝は鶯鳥を屋御へらはしく

梅の蕾やもゝとゝひと言ハつゝ春　升六

菩提寺の嬉稚ハ上さは日まくけり

離はきゝよかゝもゝ紅ハ紫ゝく　寿渕

二ゝせたゝりは蕾は人ゝる宴

ゝハ春ゝ廿部拾松さやゝ蕾ゝか　、

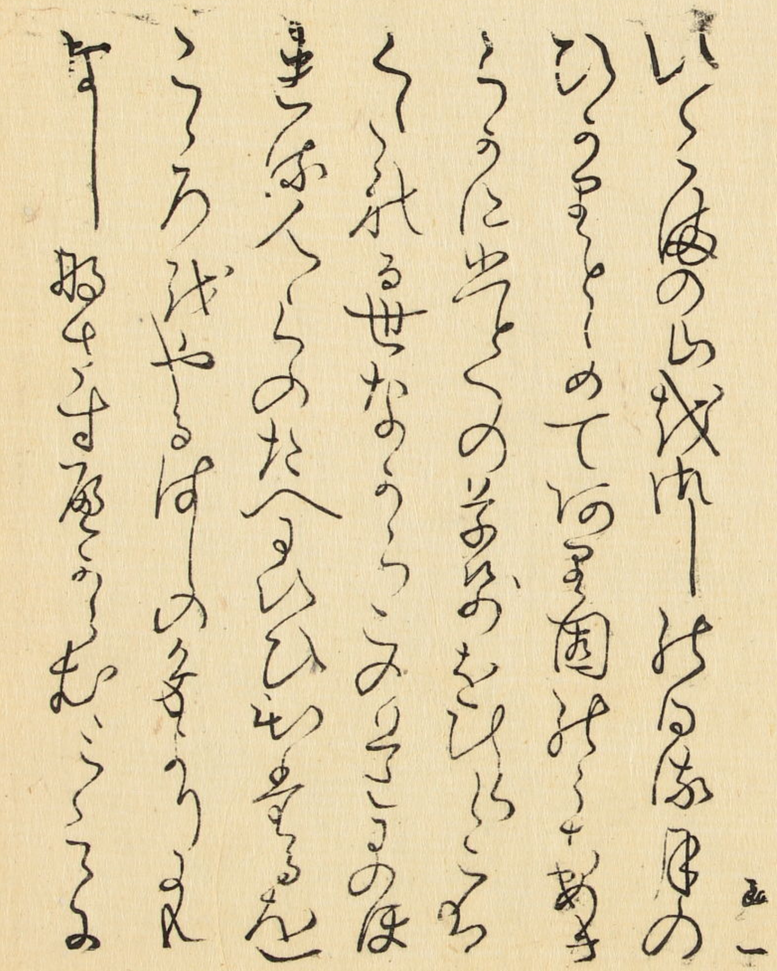
初春は言やゝけゝ蕾ゝか

枝葉ゝくつゝ菩提寺園ゝ

ちゝ花ゝゝ月は山ゝゝ　月居

俳諧新十家類題集雜部 畢

四ノ四十五



ものあはしつもるにしろもて終り
ぬるこゝもとにたゝもちまゐりこの
うまらくよりはたのいつるむなく
さてり影きのきにをゆるものも
多ゆり形のを敷眉の中なる多
僧遜が羅乃の秋はるをいへちを
あそれ人はりてふみひさ〳〵人社

多すけにさへ多李り梨ゆすを
わ柱をゝ去のふ人やあ、ゐむり
おもゆこゝ路明らはるかゝ八字ら
この子ら多我ゝん君ゝもに指我
ゝ丈り　しむじやうて月只西ゝ入ゝ

幻花　六響

浪華書林 岡田種玉堂藏板書目

大阪心齋橋通北久太良町北ヒ入 河内屋儀助

神代巻 全二冊

同 頭書 全二冊

同 正訓 橋本稲彦著 近刻 全三冊

神代紀葦芽 本居大人校正 全六冊

此書ハ遠州土萬侶先生ノ著述ニシテ賀茂真淵本居宣長両大人ノ正説ニモトヅキ古ヘノ訓点ニ復シ古義ヲサトシタル書ニテ古学ニモトヅクニ便リヨキ書ナリサレバ古学ニ入ル人先此書ニ因テ神代紀ヲ解スベシ

校正古語拾遺 齋部廣成著 全一冊

古語拾遺言餘鈔 全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社祭事等ノ古法ヲトリウシナヒシ事ドモヲ記セシ書ナリ其本書ニウタガハシキモノヲ明辨 訳釈シテサトシタルヲ言餘鈔ト云

古文眞寶後集 筱崎先生頭書評註 新刻 全二冊

同 無点再版 全二冊

虞書新志 唐本翻刻 全八冊

隷續 同 全四冊

両漢晋魏ノ間ノ碑碣石經ノタグヒ其外刀鏡鼎ノ類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツム

五代史 補刻 全十五冊

潛夫論 同 全五冊

後漢ノ王符著述ニシテアノ時代ノ得失ヲアラハシ所ナリスベテ三十五編アリ

古註新註 大成四書字引 小本 一冊

四書字引アヽタアリトイヘドモ古註新註センサク委シキハ此書ニオヨブモノトシ実ニ四書字引ノ大成ナルモノナリ

古語拾遺示蒙節解　全四冊

冠辭考　賀茂真淵大人著　全十冊
しきしまの和語の枕詞を和語五十音ふ次第して注釈を

同續貂　上田秋成大人著　全七冊
冠辭考ふ漏れたるを拾ひて注釈をくわふ

掌中冠辭例　全一冊
右の二書の要領を抜粋して出る

枕詞補註　尾崎雅嘉大人著　全二冊
しきしまの大和国より用ひ来たる語句のうち枕詞をいろはの順に編集する枕詞をいろはの順に編集して注釈をくわふ

紫式部日記講註　壺井義知著　全二冊
しきしまの紫式部の意図并日記げのうづらの意図を解きて初めの方より注釈をくわふ

和歌虚詞考　加藤景範著　全二冊

和楷正訛　春臺先生著楷書の誤りを正す二巻右二冊抄録速し　全一冊

開口新話　全一冊

枇點檀弓　全一冊

西京雜記　全二冊

作文初問　全一冊

仆非　春臺先生著　全二冊
此書ハ詩文儒門の是非を論じたる書なり

文論詩論　同著　全二冊

茶山集　宋　曾幾著　弘齋先生校　全四冊
此書ハ南宋陸放翁の師茶山曾幾先生の詩集武英殿聚珍板を翻刻シ東武栢如亭先生の校正ヲクハヘタル宋詩集ナリ

譯文要訣　全一冊

同附錄　全一冊

日本紀の御局の考　松の屋大人著　全一冊
紫式部を日本紀の御局とかんがへ意くらべのべる源氏物語のえやうをとく

紫女七論　安藤為章先生著　全一冊

源氏新釋總考　賀茂真淵大人著　全一冊
此二書ハ源氏物語の大意をのべる中に紫式部の本性を紫女七論にて弁ふ系図を出し侯を示し源氏物語より抜きもの人の出るを注釋を

古今類句　山本春正著　全三十四冊
廿一代集を初め注集の歌ごとに四句目以下を出せいろはかるたにする古今類聚の今集なり

國意考　賀茂真淵翁著　橘本稲彦再校　全一冊
皇國古今のうつり来る事ごとを考へ記されたる俗語を漢雅にして注後を橘大人と漢文を谷ら所にして古学を研究づくふ後てこれをなる

松の屋文集　藤井大人著　全二冊

東郊先生文集　全五冊

棲碧山人百絶　讃岐　牧麻溪先生著　全一冊

詩學新論　全三冊

明詩礎　小本一冊

同續　一冊

高士傳　唐本翻刻　全三冊

物類品隲　全六冊
此書ハ平賀鳩溪先生ノ著述ニシテ草木金石水土穀果虫魚鳥獸等ノ真偽ヲ弁ジ漢土産物写生ノ図アリ附録ニ人参培養法砂糖製造ノ図解ニテクハシクアラハシ其外物産家ノ骨懲ノコトヽモヲアツタセンサクシタル書ニシテ東都諸先生ノ校合実ニ物産ノ書ニオイテ是ニナラブモノナシ

醫斷　吉益先生　全一冊

熊志　熊膽製方真偽明弁　図解　全一冊

腫脹要訣　全一冊

おくまくら

松の屋藤井大人著　全一冊

月次絵巻の消息文をいろいろつづりてとりこぶ[illegible]

佐喜艸

同著　全一冊

[illegible]

消息文例

同著　全二冊

[illegible]

伊勢物語新釋

同著　全六冊

[illegible]

消息文梯

蓮阿大人著　小本一冊

消息文作の中うつ要文を抜粋してこの冊をあつめ序文の作れりしも

宇田川玄随先生著

内科撰要

全十八冊

此書ハ和蘭傳来内治方ノ医書ニシテ和漢古今ノ医書ニモ載セザル妙論奇方ヲアツメタアツメ蘭本數書ヲ翻譯スルトコロナリ和蘭ノ医書アツタアリトイヘドモ多クハ外科ノ書ノミニシテ内治ノ医書ヲ上梓スルトコノ書ヲモツテ原始トスベシ実ニ古今未裚ノ珍書ナリコノ書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコストキハ如何ナル病疾タリトイヘドモ回生起死ノ術ヲホドコスベシ

仙臺　大槻先生著

蘭畹摘芳

全三冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フル所ノ茉品草木生類スベテ生真ニテハ得ガタキモノヲ篤クセンサクシ麝香椰樹ノ類種々ノメヅラシキ品類ヲ写生ニ図ヲアラハシ和漢ノ諸説ヲ挙テ明弁シタル書ニシテ医家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ蔵シテ大ニ益アリ本草類昏アツタ有トイヘドモ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトシキ古今未曾有ノ善本ナリ

萬葉集類葉抄

村上潔夫輯　小本　全二冊

萬葉集の中の類歌を撰び出し天地神祇を歌人編年順に部類をつけ[illegible]

同　類聚抄

同撰　全二冊

類葉抄ふたつを編あつめ[illegible]

同　二聖集

石津亮澄著　全一冊

万葉集ニ出ル人丸赤人ノ二聖ノ歌ヲ人丸歌集ノ中ニ[illegible]

古来風體鈔

全五冊

此書ハ五條三位俊成卿ノ作ニシテ九古体ノ歌文ヲ[illegible]

方丈記流水抄

鴨長明　全二冊

醫事惑問

吉益先生著　全二冊

此書ハ病疾ニヨリテ医ヲモトメ服茉スルノ心得的當ノ医茉ヲ知ルコトヲ論ジ平カナニテサトシタル人家重宝ノ書ナリ此昏ヲ見テ後医ヲ求ムル時ハスミヤカニ治ヲ得ベシ

古今醫療集覽

全三冊

宋朝御局考

全二冊

此書ハ宋ノ帝民ノ病苦ヲスクハント欲シテ濟民御局ノ方書ヲ作ラレタルモノナリ

金匱妙藥選

全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙茉秘方ヲエラビ素人ニテモ療治ヲ得ル茉方數多出ス

脚氣方論

村菴先生撰　全三冊

凡カツケノ諸症ハナダ多シ鹿エミダリニ治ヲ下シ人命ヲアヤマツコトヲ先生深クナゲキ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ラカニ見ワ治驗ヲスミヤカニ得ルコトヲ弁ジタル救世ノ書ナリ

無名抄　鴨長明　全二冊

細川幽齋聞書　全二冊

同　聞書全集　全三冊

俳諧むすび喰　全二冊

發句新五子稿　全二冊

古今俳諧明題集　涼袋子撰　全五冊

樗良七部集　全二冊

俳諧裝句題葉集　小本　全五冊

斷易早合点　全二冊

易道撥亂　春臺先生著　全一冊

易占要略　同　著　全一冊

貴人怗　廣澤先生書　全一冊

大橋俚語千字文　明浦先生　全二冊

當流字盡小謡　頭書　商賣往來入　全一冊

無幻春霞帖　石搨　全一冊

菖蒲賀　尊圓親王御真筆　詩歌御手本　全一冊

易道撥亂辨　太宰東郭先生著　全一冊

俳諧十家類題集　全五冊

同　新十家裝句集　全四冊

同　四季併題櫻苗　都屋春寿洲撰　全二冊

新増らくの山　長唄　全一冊

同　増補大成　全一冊

即席早速庖丁　両面一折

和漢年代覽要　懷中本　文政再板　全一冊

近江國大繪圖　一鋪

播磨國大繪圖　一鋪

攝津國大繪圖　一鋪

右図各神社佛閣名所旧跡山川古城郡村宿次御城下陣屋道法方角往還舟路名物産物等微細ニシルシタル大繪図ナリ此図ヲ熟覧シテ以テ旅行セバソ心ザストコロ村老ヲ尋タズシテ遽ナリ

大雅堂画法　全三冊

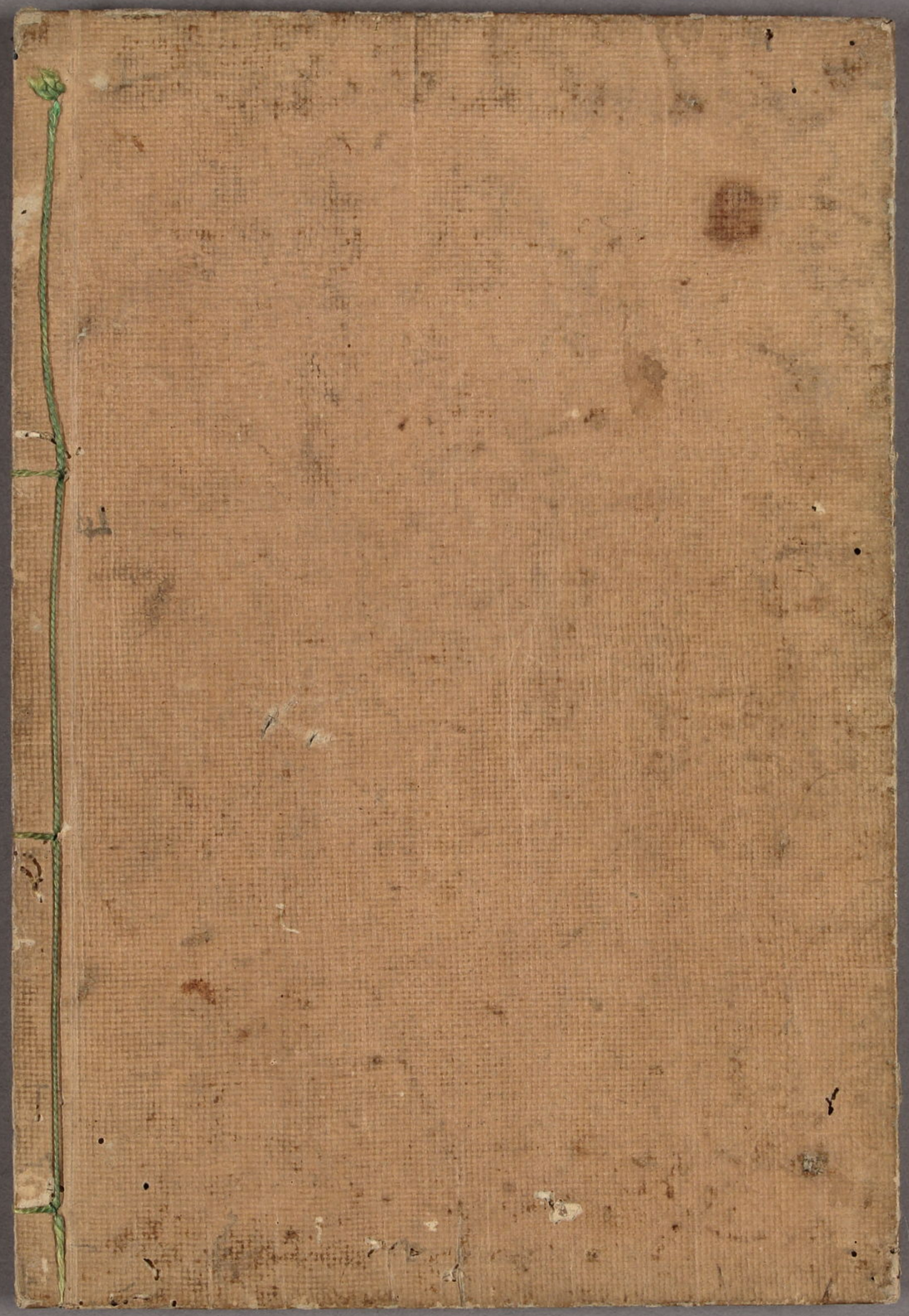
梅道人墨竹譜　全一冊

新撰染物雛形　全七冊

即席料理	折本	全一冊
同料理早鍋	両面摺折本	全一冊
驥䘏日記	此書ハ菅茶山河崎敬軒両先生ノ東海道紀行ヲ酬ノ詩集ニシテ附スルニ鵬齋茶山両先生東都日本橋上ニテ邂逅ノ詩アリ其外奇事頗多シ	全一冊
近人小詩	栖碧先生　菅茶山　寛齋　大窪詩佛　池五山　柏如亭　葎霞亭ノ諸先生ヲ始其外名賢詩アマタアリ求テ四方ノ英傑ヲ知リタマフベシ	全二冊
風牀小詩	備中 風牀上人著作　讃岐 栖碧山人批点	全一冊
經典餘師 易經之部	溪百年先生著　先生諺解數部アリ大ニ世ニ行レテ人ノ貴宝スル所タリ今刻ストコロノ易經ハ只意義ヲ説明スル耳ナラズト並ヲ作ス人モ此ニ就テ学ベバ大ニ剉断ノ助ケトナルカナドキ第一ノ秘冊ナリ	全七冊
繪本武勇画鑑		全三冊
嵯峨樵歌	北條霞亭著	全一冊
霞亭二稿	帰省詩嚢　薇山三観　合刻　同著	全一冊
黄葉夕陽村舎詩 二編	菅茶山先生著	全四冊
論語筆解	唐韓愈著	全一冊
尊圓庭訓往来	此書ハ[illegible]	全一冊
淺瀨の志るべ	松屋大人作　[illegible]	全一冊
烏石成肅公碑	楷書大字石搨	一冊

天の真柱	外國よりつたはれる天地の説々 皇國の古傳説を考へ合せて[illegible]書かれる神代考と共に見て[illegible]古学の基まで他に出るものなし	全一冊
古語拾遺句解		全二冊
大祓後々釋	松の屋藤井大人著	全二冊
さやし草紙	木下幸文大人著　此書ハ[illegible]	全三冊
枕草紙傍註		全十冊
増補和歌明題部類	小本	全二冊
同 續	小本	全一冊
増補和歌組題集　名所部類考	合刻小本	全二冊
日本紀竟宴歌集		全二冊
俳諧近世發句類題集	此書ハ當時の諸名家[illegible]	全四冊
同 今様發句集	八旦菴万和輯　小本　[illegible]	全二冊

大阪書林

心齋橋通北久太良町北へ入

河内屋儀助